



1243号

# 車両洗浄 タイヤ狙い打ち

## 北土開発 線虫対策、画像で認識

土木建築工事などを行う北土開発(芽室町)が、ジャガイモシストセンチュウ対策として、車両洗浄装置を開発した。画像処理でタイヤの大きさを正確に把握、無駄のない水量でダブルタイヤ間を洗浄する。4月から販売を開始する予定。

シストセンチュウはジャガイモの収量を減らす害虫。農機具や作業機械、衣服などに土砂が付着して運ばれることもあり、人為的要因を防ぐことが重要とされる。

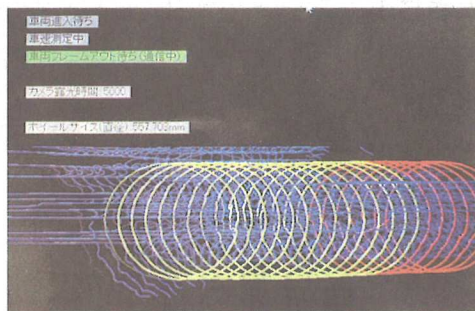
同社は建設土木のほか、ビートの製糖過程で生成さ



ジャガイモシストセンチュウ対策として開発された車両洗浄装置(北土開発提供)

れる副産物「ライムケーキ」して販売するなど、農業にを粒状化して、特殊肥料とも深く関わる。

画像処理によってホイールの輪郭を抽出する様子(北土開発提供)



農業関係者から「タイヤに付いた土をしっかりと落とせる装置が欲しい」との声を受け、3年ほど前から、とかち財団と共同で開発に取り組んできた。

車面洗浄装置はカメラを通じてタイヤを画像処理し、車体の大きさを判断。車の移動速度も把握、移動に合わせて全32個のノズルを制御し、必要なノズルを

動かして洗浄する。

同社によると、従来の洗浄装置は車両全体を洗うため、泥を落とすきれいなケースがみられた。タイヤのみを狙える装置は珍しい。タイヤの輪郭を認識する画像処理技術、画像に基づきノズルを動かす技術、ダブルタイヤの間を洗浄する技術は特許を取得している。

同社事業本部技術部長の河村泰彦さんは「必要とされる分量の水で洗浄でき、ムダな水を使わない」と話している。

基礎工事を伴うため価格などは同社(0155・62・3121)に問い合わせを。同社は敷地内に見学用の洗浄装置を備えており、4月中旬ごろから団体見学を再開する。洗浄装置について知ってもらうため、可搬型の装置も開発している。(中島佑斗)